

阪大病院 NEWS

No. **75** 号OSAKA UNIVERSITY
HOSPITAL

2019(令和元)年7月25日発行

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL／06-6879-5021

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

再開発計画

進捗状況

本院が中之島から移転して25年以上が経過しましたが、その間に医療を取り巻く環境は大きく変化しました。超高齢化社会を迎える今後、こうした医療ニーズの変化への柔軟な対応が求められるとともに、良質かつ高度な医療の提供及び社会・地域医療への貢献をこれからも継続していくには、本院の早急な再整備が必要不可欠となりました。

このため、本院では平成25年度から再開発計画が始動し、これまで様々な観点から検討を重ねてまいりましたが、現病院の北側に新たに「統合診療棟」という名称の建物を建て、中央診療機能、外来機能及び一部病棟機能を移転することを決定しました(図①)。



また、将来的には現外来・中央診療棟の場所に新病棟を建てる予定です。これにより、現在の場所に留まったまま将来的に発展性、持続性を持った病院創りが可能になります。

現在、診療機能の強化及び患者サービス機能の向上等を目指した統合診療棟の設計を進めており、このまま順調にいけば来年度末には着工の予定です。今後も進捗(しんちょく)状況を本紙面上で適宜報告してまいります。

患者さん・ご家族の苦痛和らげます

緩和医療センター開設

がんや重症心不全などの病気で治療中の患者さんが抱える様々な苦痛に対する緩和ケアを多職種が連携してサポートする緩和医療センターが、4月1日に開設されました。

緩和医療センター長

土岐 祐一郎



「緩和ケア」とは、「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者さんとそのご家族に対して、痛みやその他の身体的問題・心理社会的問題・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価・治療することによって苦痛を予防・緩和し、生活の質(Quality of life: QOL)を向上させるアプローチ」と定義されています。従来は、「緩和ケア」病気の治療法がなかった方の終末期ケア」と認識されていましたが、現在では患者さんが生命を脅かす病気の診断を受けた時点から病気の治療と並行して早期に緩和ケアを取り入れ、患者さんやご家族の苦痛を緩和しながら治療や療養を行うことが進められています。地域がん診

心不全 緩和ケアチーム

心不全緩和ケアチームは、重症心不全の患者さんの身体面・精神面のサポートを行っています。治療中の患者さん、体や心の苦痛を予防あるいは緩和し、患者さんの日々の暮らしを改善することが目的です。そのため医師・

多職種で幅広くケア

看護師・臨床心理士・薬剤師などの多職種が患者さんに寄り添い、情報を共有しながら、それぞれの専門性に立脚した幅広いケアを実施します。心不全患者さんには容体の急変も多く、治療の選択や延命治療などについて事前にし

がん 緩和ケアチーム

がん緩和ケアチームは、がんによる痛みやつらい身体症状に苦しむ患者さん、病気の治療に伴う不安・生活面の悩みを抱える患者さんを、主治医や病棟・外来の看護師と連携してサポートしています。

当チームは、身体担当・精神担当の医師、専任看護師、薬

小児がん 緩和ケアチーム

小児がん緩和ケアチームは、小児医療センターや本院で療養中のすべての小児患者、そのご家族や関係者の、体と心のつらい症状を緩和する医療を提供しています。小児と成人の緩和ケアは共通する部分も多いのですが、小児の特性に合わせたサポートを行うことが重要です。当チームは、小児科医・小児外科医な

子どもの特性を重視

小児がん緩和ケアチームは、小児医療センターや本院で療養中のすべての小児患者、そのご家族や関係者の、体と心のつらい症状を緩和する医療を提供しています。小児と成人の緩和ケアは共通する部分も多いのですが、小児の特性に合わせたサポートを行うことが重要です。当チームは、小児科医・小児外科医な

治療期からサポート

医師、メディカルソーシャルワーカーで構成されています。チームとして最も大切に行っているのは患者さんの思いです。患者さんが望まれる生活に少しでも近づけるようチームで最善のサポートを模索しています。患者さんやご家族に、ぜひ当チームをご活用いただきたいと思っています。

脳神経外科に最新式顕微鏡を導入



脳神経外科は今春、高画質でなおかつ立体的にも見ることで、デジタル式の手術用顕微鏡システムを導入しました。大型モニターに映しながら手術できるので、脳内の細部まで確認することができ、質の高い治療を提供することができます。

映像技術は日々進歩しています。手術用顕微鏡も従来の光学式からデジタル式への流れがあ

り、今回の導入につながりました。脳内は細い血管や神経が入り組んでおり、10時間に及ぶ手術も珍しくありません。光学式は医師がレンズをのぞき込みながら執刀しますが、無理な姿勢を取ることで体に負担がかかることもありました。

新たなシステムでは、55型のモニター(縦77センチ×横126センチ)に手術の様子を映して、スタッフ全

員で状況や情報を共有します。4K技術による細部までクリアな画像が、3Dめがねを装着すると立体的に見えますので、教育・指導にも有用です。

デジタル式は従来品に比べて体積が95%減り、重量は半減しました。手術するスペースを広く取ることができるのでスタッフの可動域が広がり、機材の移動もスムーズになりました。効率のよい手術は患者さんへの負担も減らせると期待できます。

今後は内視鏡とも組み合わせるなど、より効果的な治療につながるよう研究を重ねていきます。

看護師による 退院前訪問指導 始めました



退院後も医療ケアを必要とする患者さんが、安心・安全に在宅に移行し、在宅療養を継続できるよう、病院看護師が退院前に患者さんのご自宅または施設を訪問する退院前訪問を開始しました。医師や看護師、ソーシャル

ワーカー、地域ケア担当者など多職種によるカンファレンスで退院前訪問の必要性を検討します。退院前訪問では、療養環境、家屋の構造、介護力等を確認し、在宅や施設での療養上必要と考えられる指導を行います。

退院前訪問指導は保険診療で1回の訪問について最大2000円程度(健康保険の種別により変わります)の費用と、病院看護師が訪問先と病院とを往復するための交通費を負担していただくことになります。

新 診療科長等ごあいさつ



●内科系診療部門長

いさか よしたか
猪阪 善隆

令和元年5月1日より、内科系診療部門長を拝命しました。内科系診療部門は、内臓などの病気を診断し、手術ではなく、主に薬物治療を中心に治療を行っています。本院では循環器内科、腎臓内科、消化器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、呼吸器内科、免疫内科、血液・腫瘍内科、老年・高血圧内科、漢方内科、総合診療科から構成されています。最近では高齢化が進行し、専門分野の異なるいくつかの病気を抱えている患者さんも多くなっています。本院ではそれぞれの診療科が連携し、安全で丁寧な診療を心がけ、地域医療にも貢献したいと思っています。



●AI医療センター長

にしだ こうじ
西田 幸二

平成31年4月1日より設置されたAI医療センターのセンター長を拝命しました。本院が平成30年10月、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」事業に採択されたこともあり、現代の医療の問題である医療過誤のリスク、医療従事者の負担増、そして患者とのコミュニケーション不足をAI技術で支援し、本院のAI化を推進することを使命としています。また、OCR-net(大阪臨床研究ネットワーク)連携病院にもAI医療の導入・普及を図るなど大阪府全体の医療に貢献することを目指しています。



●薬剤部長

おくだ まさひろ
奥田 真弘

令和元年5月1日付で薬剤部長を拝命しました。大学病院には高度医療の提供、高度医療人の育成、高度な医療技術開発に加え、高度医療を安全に実施する役割があり、薬剤部門はクスリの円滑な供給やチーム医療における薬学的ケアの実践を通じて薬物療法の円滑かつ安全な実施を推進しています。患者さんに薬物療法を安心して受けていただけるよう、今後もチーム医療をさらに加速するとともに、地域医療機関や薬局との連携にも力を入れて参ります。クスリに関するご質問やご相談がありましたら、薬剤師まで気軽にお声がけください。

PHOTO

ホスピタル
ミニ・ニュース

TOPICS

7/5 セタコンサート開催



「アイ岡田とsixthnote」の演奏を多くの患者さんが楽しめました。

阪大病院を見学しませんか

本院では、以下のとおり見学会を開催いたします。普段は見ることでできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にお申し込みください。

- 実施日時 9月19日(木) 14時～16時30分
- 申込締切 8月21日(水) **必着**
- 対象者 一般市民(成人、個人)
- 募集人員 15人
- 申込方法

必要事項 ①氏名 ②性別 ③年齢 ④郵便番号
⑤住所 ⑥電話番号 ⑦あなたが阪大病院に抱くイメージ ⑧見学を希望する理由)を明記のうえ、はがき、FAXまたはメールによりお申し込みください。
必要事項に不備がありますと、連絡をお取りできないことがありますのでご注意ください。

(※いただいた個人情報は本見学会以外の目的には使用いたしません)

◇送付先(問い合わせ先)

〒565-0871 吹田市山田丘2-15

大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係

TEL 06-6879-5021 FAX 06-6879-5019

(※非通知設定のTEL/FAXからは頭に**186**をつけておかけください)

e-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

- 見学場所 臨床検査部、病理部、ドクターヘリなど
(※天候等の都合により見学場所が変更になる場合があります)

- 決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきでお知らせします。

- 注意事項 **見学では、かなりの距離を歩きます。**
階段の昇り降り等がありますので、歩きやすい靴でお越し下さい。

箕面婦人会からタオル帽子120枚の寄附をいただきました。



本院では、平成21年からタオル帽子の寄附をいただいています。肌に優しい生地でいろいろな模様のタオル帽子です。入院患者さんに楽しんで好みの帽子を選んでいただけたらと思います。

阪大がんサロンイベント

5月21日、第11回阪大がんサロンを開催しました。今回は、がん治療に伴う外見変化(肌色変化、眉やまつ毛の脱毛)等のお悩みに対して、専門家によるメーキャップ講習と体験会を実施しました。参加者からは「眉、アイラインの書き方が特に参考になった」「生活に役立つ情報で嬉しかった」などのご意見をいただきました。

今後の
開催予定

- 8月16日(金) 13:00～14:30
「がんの親をもつ子どものケア」
- 8月31日(土) 13:00～16:00
「AYA世代のがん みんなで考えよう」

※詳細は、がん相談支援室(オンコロジーセンター4階)

TEL 06-6879-5396 までお問い合わせください。

皮膚科

最適・最新・最良の医療で
皮膚の難病を治療する

皮膚は人体を包み込み、外界から体を守る機能を持っています。皮膚の病気には、水虫などの感染症、皮膚の免疫バランスがおかしくなることによるアトピー性皮膚炎、乾癬(かんせん)、白斑(はくはん)、膠原病(こうげんびょう)など、皮膚がん、皮膚の遺伝的な病気など、さまざまなものがあります。当科は、皮膚に関するあらゆる疾患を対象としていますが、特に皮膚の難治性疾患の治療に力を注いでいます。膠原病・母斑症・先天性表皮水疱症・乾癬・白

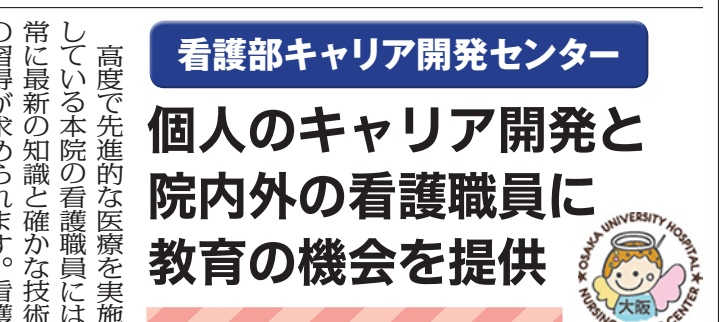
斑・皮膚アレルギー・脱毛症などの疾患については専門外来を設け、それぞれの専門家がトップクラスの診療を行っています。また、これらの病気には、皮膚以外の臓器にも症状がある場合もあるので、大学病院のメリットを生かして、複数の診療科とも互いに密接に連携しながら診療を行っています。

多くの皮膚病の治療には、塗り薬(軟膏やクリームなど)が昔から使われてきました。このような治療は皮膚に直接薬を届けることができるため、

今でも中心的な治療法ですが、最近では皮膚病の治療は大きく進歩してきていて、病気ごとに、あるいは同じ病気であっても症状ごとに、患者さんに合わせた安全性の高い薬物治療が行えるようになりました。たとえばアトピー性皮膚炎、乾癬、重症のじんましんなどでは、「分子標的薬」といわれる注射の薬で高い効果を得ることができるようになっています。また白斑、先天性表皮水疱症、母斑症などでは先進的な医療も行っています。当科で特に重点的に診療をしている病気のひとつが膠原病で、強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなどが含まれます。これまで治療の選択肢が限られていた膠原病においても、新しい治療法が開発されており、本院の他の診療科と連携しながら治療を進めています。



皮膚は体内の状態を映す鏡と言われ、思いがけない病気を発見する窓でもあります。当科は、皮膚の多彩な症状から病気の背景も探索し、最適・最新・最良の医療を提供することで、患者さんの健康を保つことを心がけています。皮膚疾患を軽視せず、ぜひ早い機会にご相談ください。



看護部キャリア開発センター

個人のキャリア開発と
院内外の看護職員に
教育の機会を提供

高度で先進的な医療を実施している本院の看護職員には常に最新の知識と確かな技術の習得が求められます。看護職員は就職後の一定期間、基

本的な知識・技術を身につける研修を受講し、それ以降も自己のキャリア開発のために学習を継続しています。当センターは「個人のキャリア開発を推進する」「院内の看護職員のみでなく広く院外の看護職員に教育の機会を提供する」という目的で2004年に設立され、今年度で16年目を迎えます。これから二つの目的を達成すべく活動している内容についてご紹介いたします。一つ目のキャリア開発の推進については、研修の企画・運営・評価です。専門的知識の習得を目指す「Basicコース」とより高度な実践能力の習得を目指す「Advancedコース」に分かれており、スキンケア・糖尿病看護・看護管理・がん看護・看護管理・新人教育など様々な研修を開講しています。最大の特徴は、最新の知見(エビデンス)をもとに臨床ですぐ



イラスト①はオリジナルキャラクター「たこ焼き天使」、写真②は研修の様子

に活用できる知識と技術を学習できる点です。それを実現するために、全ての研修を専従の委員が運営し、院内の専門看護師・認定看護師・看護管理者・教育担当者など各分野のエキスパートが講師を務めています。二つ目の院外の看護職員に教育の機会を提供する活動については、他施設に対して積極的な広報を行っています。各施設に研修案内を郵送し、専用ホームページで当センターの情報を公開しています。設立から今までに受け入れた施設数は大阪府のみならず兵庫県、京都府も含め2000以上にのぼり、8000名を超える受講者が修了しました。研修を通じて看護職員同士がともに学び、情報交換できると好評です。日々進化する医療に合わせ看護職員の教育ニーズは多様化しています。個人のキャリア開発をより促進するために多様化したニーズに対応した研修企画に加え、研修という形にこだわらない新たな教育機会を提供していく必要があります。新たな時代に対応できるキャリア開発の形を模索、検討しながら当センターも進化し続けたいと考えています。

「令和元(2019)年度国公私立大学附属病院医療安全セミナー」を、5月29日から30日にかけて開催しました。このセミナーは、全国の大学病院に所属する医療安全の専門家らに最新の知見を紹介するため、文部科学省の後援のもと平成16年から阪大が毎年主催しています。今回

国公私立大学附属病院
医療安全セミナーを開催

は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、事務職員など、計421名の参加がありました。今年のプログラムでは、「患者さんの立場で考える」という病院理念のもと、職員一人ひとりの誇りとやりがい、そして患者さんとの協働を通して成し遂げた組織改革の実際、「人工知能やゲノム編集等、最先端技術の医療への導入に関する厚生労働省の最新の施策」、「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく先行的安全マネジメント」等の講演がありました。参加者からは、今後の院内の医療の質・安全の推進に活かせる新たな知見を得ることができたと大変好評でした。

・越村看護部長おすすめ・

カラフルメニュー



「スペインに行ったような気分になりました！」など、患者さんからたくさんの感想をいただきました。パエリアやガスパチョ(トマトの冷製スープ)など、初めて提供したスペイン料理は大好評でした。看護部長と相談しながら栄養管理室で試作を重ね、パエリアは彩りや食べやすさなど、ムニエルはレモンソースやバジルソースなどソースにこだわり、おしゃれなメニューになるよう工夫しました。



メニュー

- パエリア
- ムニエル
- ガスパチョ
- サラダ
- デザート